

中高生の将来を損なう 「ネット炎上」は なぜ減らないのか

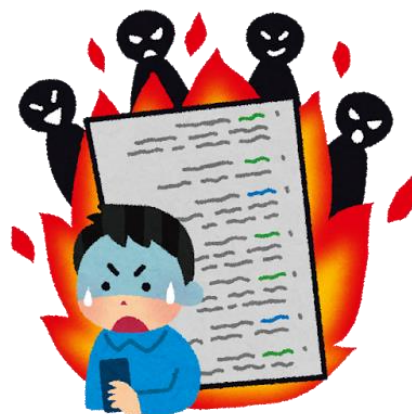
悪ふざけの様子や、有名人の目撃談をブログに投稿し、大きな騒ぎになってしまう「ネット炎上」が起きると、第三者によって本名や学校名、顔写真などが暴かれ、インターネット上に拡散し、長期間に渡って残るなど、当事者の将来に大きなマイナスの影響がおよびます。

常識によるブレーキが効かない

アルバイト中の悪ふざけ、弱いものいじめ、他人のプライバシーや権利を侵害する行為など、中高生の「ネット炎上」の多くは、ネットへの書き込みをする以前に「人として許されない行為」が原因となっています。新たな「ネット炎上」が起きるたびに、インターネットやスマートフォンの普及に伴う社会問題として世間では取り扱われますが、それだけでなく、家庭教育や、学校現場での生活指導の大切さが改めて問われることとなります。

ネットの特性を正しく理解していない

「インターネットの特性により騒ぎが起きる、拡大する、影響が長引く」ことについても、正しい理解が必要です。まずは「秘密のつもりでも公開される」（本資料の平成27年8月更新分）や「いったん送ったら全部は取り消せない」（同9月更新分）などネットの特性を、子どもの発達段階に合わせて早くから何度も説明し、理解させる必要があります。また、アルバイト先からの損害賠償請求や本人の信用失墜など、大問題になった際の自分や周囲の人々への悪影響についても、中高生に分かる表現で、なるべく具体的に理解させることが大切です。



ご家庭での対応

中高生の不適切なネット利用を原因とする「ネット炎上」の多くのケースでは、不適切な投稿をした本人だけでなく、その家族や自宅の情報までが暴かれ、ネット上に公開されてしまいます。場合によっては、迷惑をかけた先から多額の損害賠償を請求されることもあります。

ところが、そうした大きなトラブルはある日突然起きるのではなく、ほとんどが、日々の「ちょっと危うい使い方」の積み重ねの結果です。お子さんの大切な将来を損なわないためにも、普段から利用の様子に目を向けることや、トラブルが小さいうちにお子さんから家族に相談できるような関係づくりが求められています。